



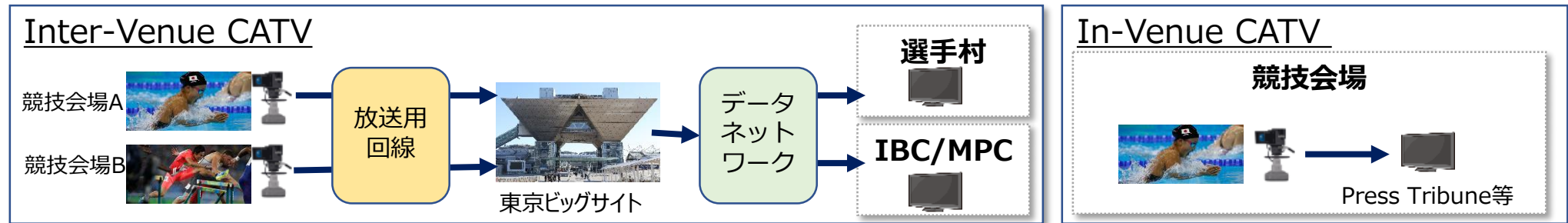
TOKYO 2020

映像配信ネットワーク関連業務委託 (構築・サービス提供) について

2020年12月11日

◆背景と今回の工程内容

- ケーブルテレビ(CATV)は競技会場と非競技会場(IBC,MPC,OLV,OFH,PFH)において、大会関係者が競技映像(OBS Feed)および商用チャンネルを視聴するための大会専用のサービスであり、開催都市契約にその提供が義務付けられている。
- 東京2020大会では、過去大会と同様、下記2つのCATVサービスを提供する
 - Inter-Venue CATV：選手村やIBC/MPC, OFHなどで、全競技会場の競技映像(48ch)および商用チャンネル(約15ch)を視聴できるサービス。
 - In-Venue CATV：同一競技会場内の競技映像を視聴できるサービス。映像の遅れがほとんどなく、Press Tribune等、競技が見える場所での利用。



- Inter-Venue CATVの基本設計は、完了済み。Inter-Venue CATVの詳細設計、In-Venue CATVの詳細設計(基本設計含む)は発注済みで、2020年2月末に完了。
- これまでの設計情報を踏まえ、2021年7月※のサービス開始に向け2021年1月上旬※より構築に着手し準備を進める

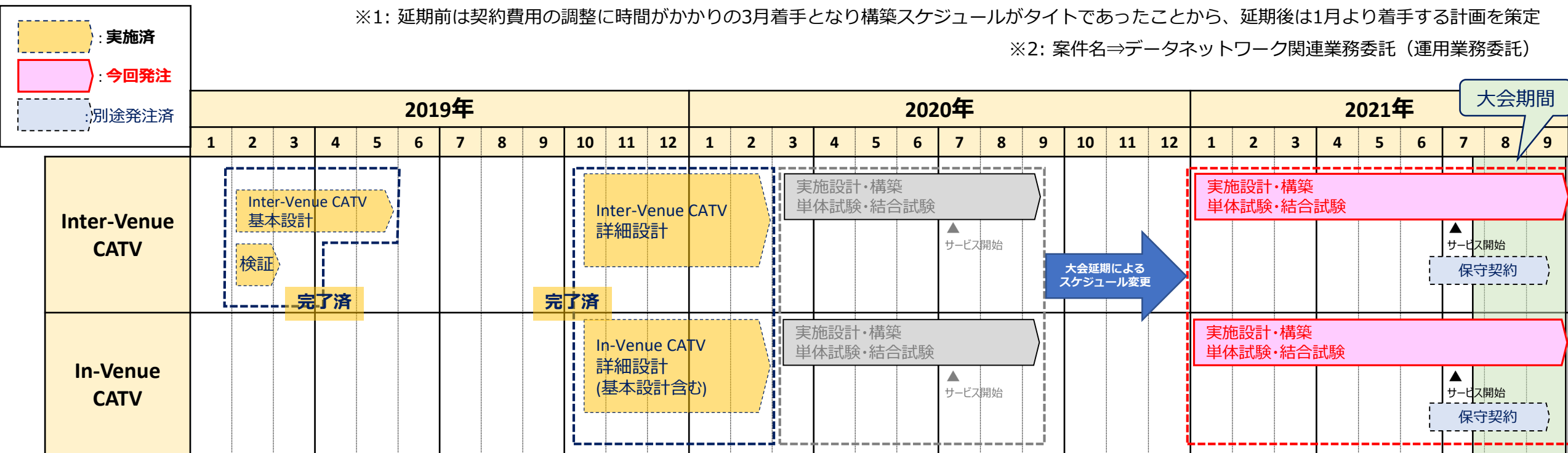
※大会延期による時期の変更

◆スケジュールおよび工程概要

- CATV構築のスケジュール全体像は以下の通り。本契約の締結に向けた作業中に大会延期となったため、延期に伴い着手時期を後ろ倒し※1している。
- 本契約にて、大会時に必要となるInter-Venue CATVおよびIn-Venue CATVに係る基盤工事の構築および撤去、大会時のサービス提供をカバーする。（大会延期前からの変更なし）
- 大会期間中に必要となる運用保守は、費用・体制の効率化のために各種通信サービス用の運用保守と併せて別途発注済※2であり、大会延期に伴う契約変更も実施済み。

※1: 延期前は契約費用の調整に時間がかかりの3月着手となり構築スケジュールがタイトであったことから、延期後は1月より着手する計画を策定

※2: 案件名⇒データネットワーク関連業務委託（運用業務委託）



◆ 実施内容

本発注にて、以下に関するサービスを申し込む

- Inter-Venue CATVサービスの提供
- In-Venue CATVサービスの提供
- 主な工程
 - Inter-Venue CATV
 - エンコーダ／放送サーバ等の大会のみで必要となる機器の設置や設定
 - 構築後の性能試験の実施
 - STBの設定変更および必要数分の提供
 - IBCとCATV配信センター間の伝送回線および監視回線
 - In-Venue CATV
 - ヘッドエンド機器の設定および構築(ヘッドエンド設置会場のみ)
 - 構築後の性能試験の実施
 - 監視回線

◆ 契約見込みの契約形態について

- NTTコミュニケーションズより大会用のInter Venue CATVおよびIn Venue CATVサービスの提供を受けるにあたり、以下2点のメリットがあることから環境提供契約を結び進めることとしたい
 1. NTT側の既存設備を利用することが可能となり、コスト最適化がはかれる
 2. NTT側で一気通貫にシステムを準備することで信頼性の高いサービスの実現

<環境提供契約とは>

- CATVサービスの提供に必要なとなるシステム設備を全てNTTコミュニケーションズが用意(資産は全てNTTコミュニケーションズが所有)し、東京2020大会期間中のCATVサービスを提供する契約を指す。
- なお、全ての設備を新規に構築することなく、新設の機器に加えて、NTT等が既存で所有している設備・リソースを一部活用することができ、構築期間の短縮およびコスト削減を実現し、効率的にシステム環境を準備することが可能